

# 窓

福井県教育総合研究所 所報 No.167

(平成30年3月2日発行)

〒919-0461 福井県坂井市春江町江留上緑 8-1

TEL 0776-58-2150(代表) FAX 0776-58-2151

URL <http://www.fukui-c.ed.jp/~fec/>

E-mail : [info@fec.fukui-c.ed.jp](mailto:info@fec.fukui-c.ed.jp)

○先端教育研究センターについて …… 1  
○サイエンスラボについて …… 1  
○教科研究センターについて …… 2

○教職研修センターについて …… 3  
○教育相談センターについて …… 3  
○教育博物館について …… 4  
○所長挨拶 …… 4

## 協働による研究推進

～先端教育研究センターの取組～

先端教育研究センターには、教育総合研究所員2人の他に「協同研究員」として福井大学教職大学院の倉見教授、高阪講師が所属しています。教職大学院、教育総合研究所内の各センター各課と連携協力しながら各種業務を推進しています。この他、「特別研究員」として、東京外国語大学大学院教授でNHKラジオ「基礎英語3」講師の投野由紀夫先生、東京学芸大学特命教授でNHK高校講座「物理基礎」講師の川角博先生が所属し、それぞれ、英語教育グループ、理科教育課とともに研究を推進しています。



### ○教員志望者セミナー

【教職研修センター(教員研修課)と連携】

大学生、高校生、保護者を対象としたセミナーを初開催。約130名の参加。特に、若手教員6人が登壇したパネルディスカッションが好評でした。

### ○教員免許状更新講習

【教職研修センター(教員研修課)と連携】

全国初の県教委(教育総合研究所)と大学の連携講座として実施。全5期で389名が受講しました。

### ○課題解決型学習に関する学習会主催

【教科研究センター(新教育課題教育課)と連携】

11月30日(木)に実施した評価モデレーションを体験する学習会には11高校から19名が参加。3月には第2弾として「学校の魅力を引き出す取組み、実践事例を学ぶ」学習会を開催予定です。



## 課題解決型・探究型の学びを追究

～全国でも類のないサイエンスラボの取組～

本年度新設されたサイエンスラボでは、新しく導入された高度な実験機器や遠隔授業・研修システムを活用し、県内の小・中・高校生の探究能力や課題解決能力を引き出すための実験や研修を企画し、理科実験配信、アドバンス実験講座、東大・京大等の研究者に学ぶ実験講座などを運営しています。

### <理科実験配信>

遠隔授業・研修システムを活用して、4校の小学校に7回、16校の中学校に31回、8校の高校に12回、計50回の理科実験を配信しました。また、学校の要望に応じた実験配信も行いました。配信では、双方向の利点を生かし、探究型の深い学びを追求しました。来年度からは、小学校の配信を拡充していく予定です。

### <アドバンス実験講座>

高校生の希望者を対象に、物理、化学、生物の各分野で、高校の発展レベルから大学レベルの実験を体験しながら、課題解決的で探究的な学びを実現する講座を実施しました。参加した高校生は、選択した1つの分野に関して、年間5回の講座を受講しました。物理分野ではオシロスコープを利用した波動実験を3つ、圧力に関する実験、静電気についての実験を行いました。

### <東大・京大等の研究者に学ぶ実験講座>

東大の講座は、中学生と高校生を対象にした「缶サット実習」、京大の講座は、高校生と高校の理科教員を対象にした「iPS細胞に関する実験教室」を実施しました。「缶サット」ではパラシュートの落下時間を目標タイムに近づける課題や、缶が着地したときに直立させるような構造を考案し、作製する課題に取り組みました。「iPS」では、「iPS細胞が万能細胞であることの証明」をグループで考察する課題解決型・探求型の取り組みを実践しました。



理科実験を受信している授業風景

# 研究成果の情報提供、学校との協働研究を推進

教科研究センターとして機能・体制を強化した平成 29 年度は、以下に示すように、学校との協働研究のほか、様々な調査研究活動に取り組みました。そして、研究成果を教材や通信のかたちで学校に発信しました。また、先端教育研究センター、サイエンスラボでは、特別研究員を招聘して、教材作成や教員研修等に取り組みました。

## 小中学校教科研究課

### 学力向上グループ

～学力調査結果の分析・情報発信と

学校現場における活用推進～

平成 29 年度は、学力調査の活用による授業改善の広がりに向けて、学力調査問題の作成および分析に関する研究を進めるとともに、訪問研修を強化・充実させることを目指しました。また、昨年度までに訪問研修を実施した学校等への追跡取材を行い、訪問研修の効果等について調査しました。

#### <全国学力・学習状況調査>

調査結果について、統計学的な手法を用いた客観性の高い分析資料を作成し、研究所HPで発信しました。

#### <SASA>

これまでの教科別の学力調査、生活や学習、学級に関する児童生徒質問紙調査に加え、新たに学校質問紙を実施しました。これにより、各学校の学力調査活用状況を調査しました。学力調査、質問紙調査の分析資料を作成し、研究所HPで発信しました。

#### <訪問研修>

これまでと同様に、学校内における学力向上に向けた「検証・改善サイクル」を構築することの重要性を訴えるとともに、授業づくりなどのグループワークを積極的に取り入れ、より実践的な研修を目指しました。

### 英語教育グループ

英語絵本および CAN-DO の活用に関する研究や、「コーパスを活用した英語表現集」の作成に取り組みました。

#### <英語絵本の活用に関する研究>

協力校において、英語専科ではない担任の先生と共に絵本を取り入れた外国語活動の授業案づくりと授業実践を行い、東京学芸大学の粕谷恭子先生を迎えて、授業研究会を開催しました。

#### <CAN-DO の活用に関する研究>

小学校に関しては、外国語の教科化を見据えて、勝山市の協力校で CAN-DO を意識した授業とパフォーマンス評価の研究実践を行いました。中学校については、3年間の学習活動が見通せる「CAN-DO チェックシート」を作成し、協力校の生徒の自己評価を基にした研究を行いました。また、先端教育センター特別研究員（東京外国語大学教授）の投野由紀夫先生を迎えて、中学校英語科の研修講座を開催しました。

#### <「コーパスを活用した中学生のための英語表現集」の作成>

特別研究員の東京外国語大学教授の協力を得て、研究協力校の中学生の英作文データを基に、NHK 基礎英語「LEAD」の例文も使用して「コーパスを活用した中学生のための英語表現集」を発刊しました。

## 高校教科研究課

～高校生の学力向上のための情報を提供～

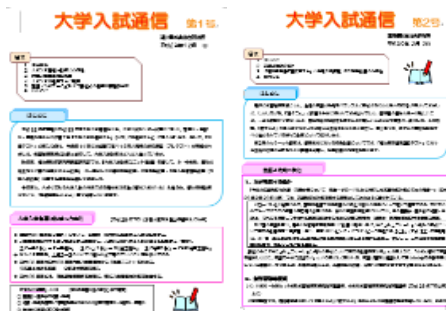
平成 29 年度は、高校生の学習到達度を測定して授業改善のポイントをお知らせするとともに、新しい大学入試改革についての情報収集とその発信に取り組みました。

#### <福井県到達度確認テストの実施>

テスト問題の作成および結果分析から、高校生が抱えている課題は何か、なぜつまづくのかを探るとともに、学校の先生方が今後どのように指導していくとよいのかを報告書でお知らせしています。

#### <大学入試通信の発行>

大学入試改革についての情報収集に務め、「大学入学共通テスト」のモデル問題例や試行調査（プレテスト）の分析を行い、「大学入試通信」を第 1 号から第 4 号まで発信しました。高校だけでなく、小・中学校にも配信することで、福井型教育 18 年の連携を目指しています。



## 新教育課題研究課

～「主体的・対話的で深い学び」を実現する課題解決型等の授業と評価の研究～

新学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」を実現する課題解決型等の授業と評価の研究に取り組んでいます。平成 29 年度は、カリキュラムマネジメントや課題解決型学習の進め方などの教材を作成し、評価についての学習会を開催しました。教材は、ふるさと教育、道徳教育、主権者教育の教材と共に「学習支援システム」で配信しています。さらに、教職員の皆様の教材研究等に活用できる教育関連図書を紹介する「図書レビュー」やラジオ教育番組を活用した英語、国語、道徳の授業例を本所の HP に掲載しています。中学生や高校生が社会に関心を持つために新聞記事等を活用した時事問題に関する資料も作成し、研修時に提供しています。教材や資料等をぜひ御活用ください。

今後もさらに課題解決型等の授業や評価についての研究を進めるとともに、来年度はふるさと教育の「全体計画モデル」の構築も進めていく予定です。



# 学び続ける教員研修の充実

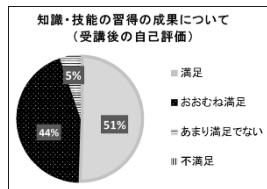
「ふくい教育」の良さを継承しながら新しい時代に対応できる教員を育てるために、大幅に見直された教員研修体系のもと、研修を実施しました。また、研修講座申込システムの改修により、申込みをはじめとする事務手続きを簡易化し、教員研修の受講実績を管理することで、適切な研修の受講を促進していきます。

## キャリアに応じた基本研修・職務研修

～学び続ける教員を支えるための、新たな研修の実施～

### <中堅教諭等資質向上研修(兼 免許状更新講習)>

免許状更新講習に読替可能な研修として、30歳代、40歳代、50歳代の各世代のテーマを設定し「キャリアに応じた基本研修」を実施しました。福井県の教員研修として根付いているクロスセッションも取り入れ、世代を超えたグループで学び合う、大規模な研修となりました。



### <ミドルリーダー養成研修>

校内の中核となる教員を対象にして、OJTを推進するスキルを身に付ける研修を実施しました。受講者は、校内における自己の課題に目を向け、チームを組織して実践研究を進め、学校改善に取り組みました。



### <マネジメント研修>

学校経営の理論やカリキュラム・マネジメントの研修を行い、学校のリーダーとして喫緊の課題に対応するスキルを高めました。受講者は各自の実践プランをもとに各校での研究を進め、その成果を発表しました。

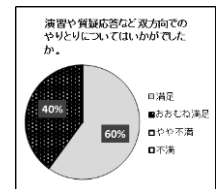
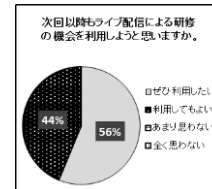
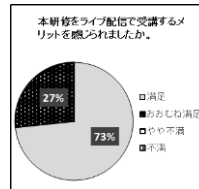
## 遠隔授業・研修システムで次世代型教員研修

～より効率的で効果的な教員研修の追求～

### <研修講座>

本研究所～嶺南教育事務所間のライブ配信を6講座実施しました。

1) 講師の発表(スクリーン)映像、  
2) 講師や受講者、会場全体の映像、  
3) 音声と、3回線同時接続によって、臨場感のある双方向型研修が実現し、受講者からは以下のように評価をいただきました。今後は、講座資料の事前準備や主会場と受信会場の事前打ち合わせをさらに綿密にし、研修講座を充実させていきます。



### <その他の研修>

マネジメント研修における学校別協議、臨時任用講師研修の授業参観や研究協議でも、遠隔授業・研修システムを活用しました。移動時間や旅費が削減され、決められた時間で協議を行うことで緊張感がうまれ、より充実した協議になりました。

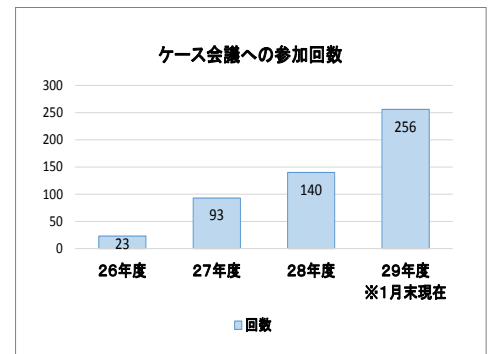
# 教育相談の充実に向けて

本年度、当センターの構成員は、教員7名、技術職(心理)1名、スクールカウンセラー2名、スクールソーシャルワーカー5名となりました。学校サポートチームが設置され、従来の教員のみによる教育相談体制から、「チーム学校」のモデルとして教員と外部の専門家が協働で教育相談活動を行う体制へと大きく様変わりしました。

複雑化していると言われるいじめや不登校に学校サポートチームで対応するとともに、昨年度より県内の小・中学校に提供している福井県版学級経営プログラムの実践により、いじめや不登校の未然防止にも取り組みました。

## <学校サポートチームの設立>

学校サポートチームは、教員、心の専門家、福祉の専門家で構成されるチームです。当センターへの来所相談、所内ケースカンファレンス(相談会議)、学校の支援会議への参加などを、教員と臨床心理士や社会福祉士などの資格を持つ専門家が協働して行いました。近年、当センターでは、学校のケース会議(事例会議)に参加することが増えています(右グラフ参照)。学校サポートチームは、ケース会議にて、心理的なアセスメントや学校以外の関係機関とをつなぐソーシャルワークの助言などをしました。また、学校サポートチームの役割の1つとして、想定される学校危機に対する緊急対応マニュアルも作成しました。



## <福井県版学級経営プログラムの実践>

福井県版学級経営プログラムは、小学校のソーシャルスキル教育を柱としたプログラムと、中学校のピア・サポート活動を柱としたプログラムからなっています。今年度は、本プログラムの実践と省察を繰り返し、学校の課題に応じて継続性のある形で学校支援、教師支援を行っていくこと、そのことを通して学校の自己解決力を育むサポートを行っていくことを目指して、授業実践を行いました。



# 見て・聴いて・触れて学ぼう 福井の教育

～教育博物館の取組～

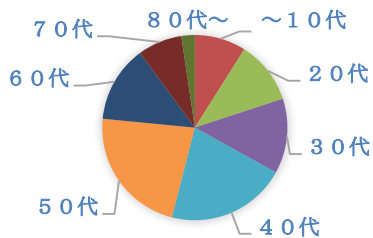
本館では、「大人から子どもまで福井県の教育に親しみのもてる博物館」を第一のコンセプトとして、展示の工夫やイベントの企画・運営を行ってきました。来館者の方々は、様々な目的で来館し、それぞれに学び、楽しみ、充実した時間を過ごされていました。

## <本年度の企画展・特集展示等>

本館では、上記の第一コンセプトと、「教育」に関する博物館であるという特徴をもとに、様々な展示やイベントを行いました。

〈企画展・特集展示〉	〈イベント〉
<ul style="list-style-type: none"> <li>・校歌 ～描かれた風景と郷土の願い～</li> <li>・ふるさとに学ぼう ～郷土教材から見る ふるさと福井～</li> <li>・福井地震と学校 ～昭和23年6月28日5時14分 学校では～</li> <li>・文部省唱歌誕生秘話 ～歌詞編纂の最終責任者 芳賀矢一博士の校閲～</li> <li>・芳賀矢一 ～国語教育の先見の明～</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌って遊ぼう～唱歌・童謡を歌おう～</li> <li>・唱歌や童謡を歌おう with コカリナ</li> <li>・16ミリ映画上映会</li> <li>・クリスマスリースを作ろう</li> </ul>

## <来館者の年齢構成> ※アンケート調べ



## <人気の展示・来館者の声> ※アンケート調べ

- 1) 校歌検索システム
- 2) 各時代の教科書
- 3) 昭和30年代の再現教室
- 4) 書道体験等、触れる物の数々
- 5) 教室の様子を再現したジオラマ

・手に取って見られるところがよかった。 ・今の学力の支えがみえた。  
・親子で楽しめた。 ・自分が使用した教科書が懐かしかった。

## <来館者の様々な学び>

### 〈春江小学校〉

2年生が「町探検」で来館しました。子ども達は、事前に質問事項を用意し、その質問に対する職員の説明から、様々な発見をし、多くのことを学んでいました。



### 〈殿下・越廼・国見中学校〉

1, 2年生が校外学習で来館しました。それぞれの目的に合わせて見たり、聞いたり、触ったりしながら熱心に記録し、学んでいました。



### 〈沖縄県南風原町教育委員会〉

現在の福井の教育について、実物資料や映像を丁寧にご覧になり、記録されていました。



## 所長挨拶



所長 小和田 和義

平成29年4月から新たに「教育総合研究所」としてスタートしました。「総合」とは何かを模索しながらのスタートでした。全国的にも珍しい「教育博物館」の併設、高度な実験設備を使った理科実験の遠隔配信事業の実施、教育相談における心理職などの専門家を増員したチームとしての学校支援、そして大学との連携による免許状更新講習の導入など新たな教員研修体系への挑戦、所員とともに駆け抜けた1年でした。

この1年の皆様の評価は、これからいろいろとお聞きすることになるとは思いますが、大きな成果を残した1年であったと思います。

今後とも、教育総合研究所をいろいろな形でご利用いただきますようよろしくお願いいたします。